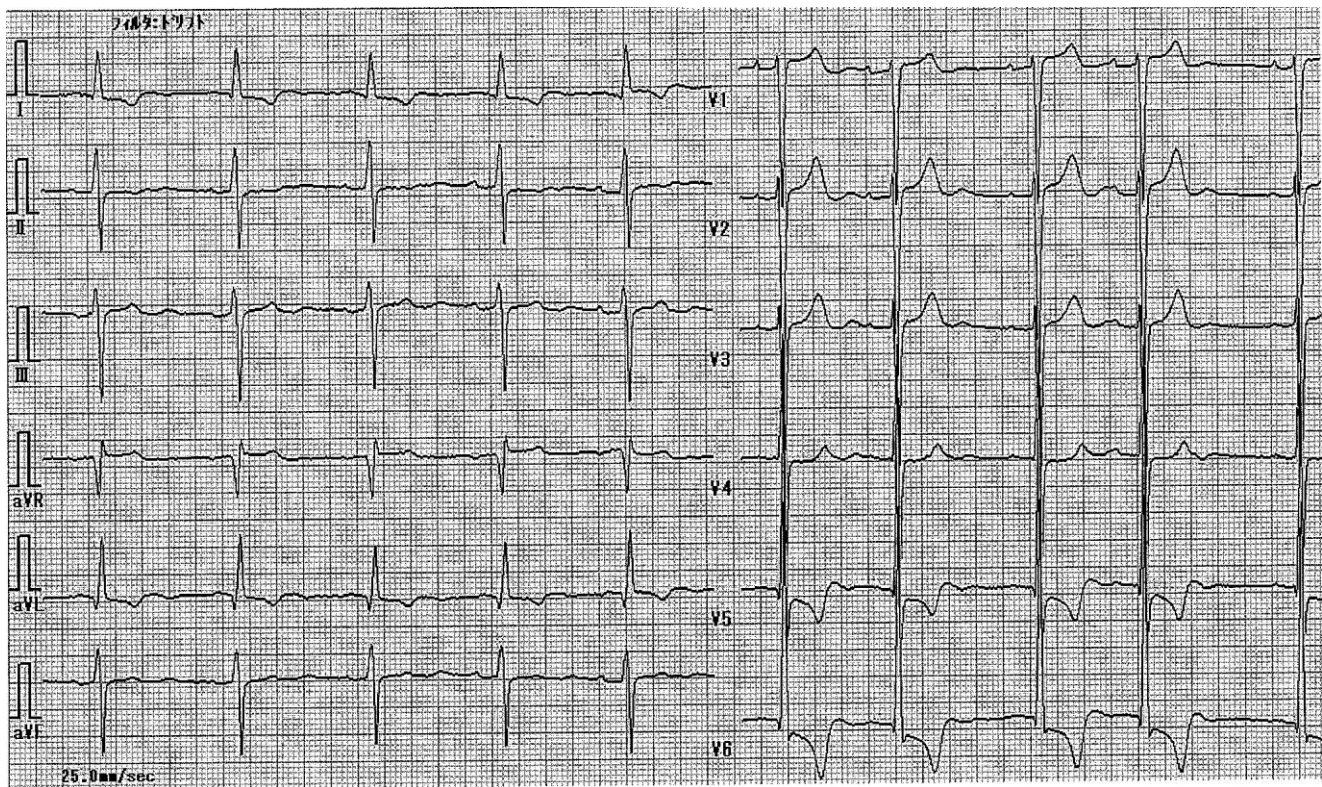


- d 運動負荷心電図
- e 血中心筋トロポニンT



正解： b

解説： 労作に伴う胸痛で代表的な疾患は虚血性心疾患であるが、本例は冠動脈造影で明らかな狭窄がないことから虚血性心疾患である可能性は低い。冠攣縮性狭心症は労作時より安静時に狭心発作を起こすことが多い。

聴診所見より大動脈弁狭窄や閉塞性肥大型心筋症などの左室流出路の狭窄病態が疑われる。運動負荷試験は虚血性心疾患の診断には有用であるが、左室流出路の狭窄病態が疑われる場合はむしろ禁忌となる。左室肥大があると思われるので血中BNPは高値であることが予想される。

また本例の胸痛は狭心発作である可能性があり、トロポニンの上昇もあり得るが、両者とも治療方針決定をするほど有用ではない。心エコーで雑音の起源およびその程度を診断することが可能である。左室流出路の圧較差の程度は心臓カテーテルでなくても心エコードップラー法で十分予測可能である。

問題 2. 内分泌代謝科

低血糖を起こすのはどれか。2つ選べ。

- a 先端巨大症
- b 褐色細胞腫
- c 慢性腎不全
- d 多嚢胞性卵巣症候群
- e インスリン自己免疫症候群

ご要望や文字が見えにくいなどの問題がございましたら、ぜひご連絡ください。

2013 年内科通信連絡先：

〒329-0498

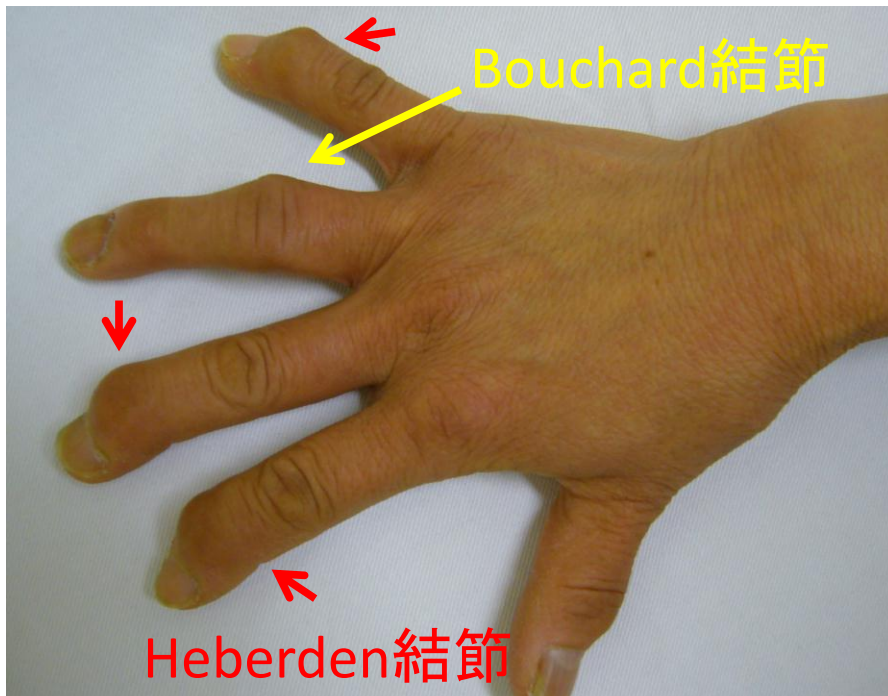
栃木県下野市薬師寺 3311-1

自治医科大学

消化器内科 大澤博之

Tel: 0285-58-7348

E-mail: 13naikatsu@jichi.ac.jp



問題 2. 呼吸器内科

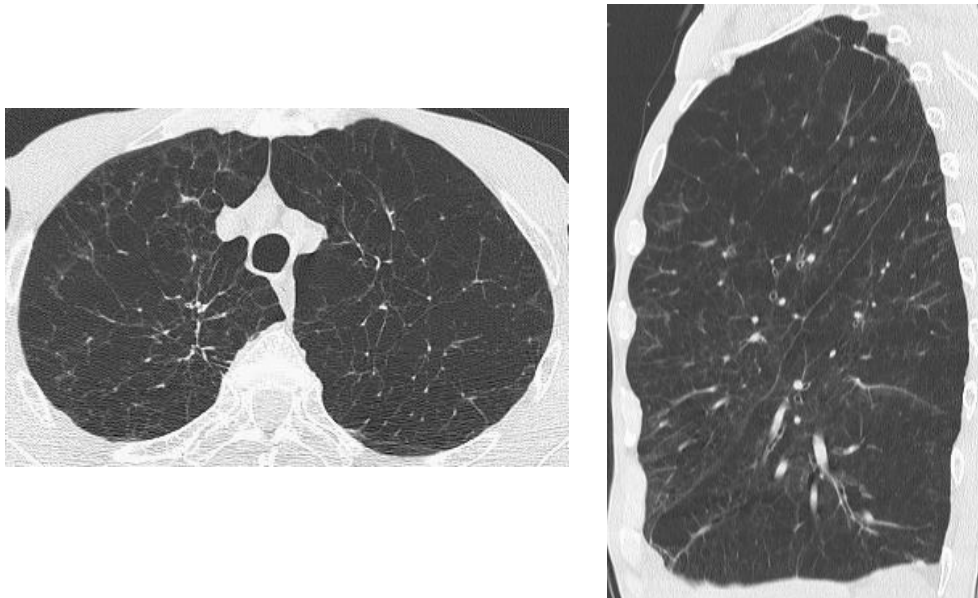
75歳の男性。体動時の呼吸困難を主訴に来院した。喫煙歴は20歳から65歳まで、1日40本。胸部X線およびCT写真を示す。本疾患で認められる聴診所見はどれか。2つ選べ。

- a. 吸気の延長.
- b. 胸膜摩擦音
- c. 呼吸音の減弱
- d. 呼気終末の fine crackles
- e. 強制呼気時の連続性ラ音

図1



図2



正解： c, e

解説： 本症例は、慢性閉塞性肺疾患(Chronic obstructive pulmonary disease; COPD)である。COPD の発症・進展にはタバコ煙が強く関与し、中高年のタバコ病または肺の生活習慣病と呼ばれることもある。今後、人口の超高齢化や喫煙などの危険因子への曝露の継続により COPD 患者は確実に増加し、数十年間で COPD の罹患率と経済的・社会的負荷はさらに増大するものと思われ、全世界的にみても 2020 年に死因の第 3 位になるものと推定されている。

日常診療では慢性に咳・痰・体動時呼吸困難などを認める 40 歳以上の喫煙者において COPD を疑うべきである。病初期には典型的な臨床像を示さないが、進行すると特徴的な身体所見を呈する。代表的な身体所見としては、過膨張による樽状胸郭・呼気の延長・口すぼめ呼吸・呼吸補助筋の活動性亢進などである。聴診所見では、呼吸音の減弱、気流閉塞に伴う連続性ラ音などを認める。

本症例は典型的な COPD の画像所見で、胸部 X 線写真では過膨張所見（横隔膜の平低化や肋間腔の開大・滴状心）や肺野の透過性亢進を認める。胸部 CT 写真では、両側肺野の大部分は気腫性病変で、わずかに健常肺が残るのみである。

コメント：

今回は頭痛の鑑別と消化器の問題は CT の読影です。前回の問題の解説はいかがでしたでしょうか。関節所見の鑑別は知識の整理として役立ちます。COPD は国家試験にもよく出題されますので臨床症状や検査所見の特徴をまとめておきましょう。

- d. 緊張型頭痛：非拍動性頭痛の項目のみが緊張型頭痛に一致する。その他の特徴は全て片頭痛の徴候である。
- e. くも膜下出血：人生最大の突発性の頭痛と表現されることが多い。

解説：

片頭痛の症例である。閃輝性暗点、持続時間、嘔気・嘔吐、日常動作での増悪、および音過敏・光過敏があり、診断基準に合致する片頭痛である。家族歴もある。なお、片頭痛の診断に拍動性は必須ではない。

前兆のない片頭痛の診断基準（抜粋）

- B. 頭痛の持続時間は4～72時間
- C. 頭痛は以下の特徴の少なくとも2項目を満たす（選択項目）：1. 片側性；2. 拍動性（☆無くてもよい）；3. 中等度～重度の頭痛；4. 日常的な動作（歩行や階段昇降などの）により頭痛が増悪する、頭痛のために日常的な動作を避ける
- D. 頭痛発作中に少なくとも以下の一項目を満たす
 - 1. 悪心または嘔吐（☆緊張型頭痛には悪心・嘔吐はない）
 - 2. 光過敏および音過敏

典型的な前兆を伴う片頭痛の診断基準（抜粋）

- B. 少なくとも以下の一項目を満たす前兆があるが、運動麻痺は伴わない。
 - 1.陽性兆候（たとえばきらきらとした光・点・線が見える）
- D. 1.1 「前兆のない片頭痛」の診断基準B～Dを満たす頭痛。

問題 2. 消化器内科

Dynamic CT で低吸収域腫瘍として描出されるのはどれか。

- a. 肝細胞癌
- b. 肝血管種
- c. 腎細胞癌
- d. 膵管癌
- e. 膵神経内分泌腫瘍

解答：d

解説：

a, b, c, e は血流が豊富な腫瘍として描出される。
肝細胞癌は動脈相で染まり遅延相で wash out される。
肝血管種は遅延相でも濃染している。
膵神経内分泌腫瘍は動脈相で濃染していることで膵管癌と鑑別できる。

読者のみなさま、セルフトレーニング問題には挑戦していただけているでしょうか。

